

中国における分類件名一体化の歴史と背景

梁 桂 熟*

A History and Backgrounds of the Integration of Classification and Subject Headings in China

Guishu LIANG

抄録

本論文では、中国の分類件名一体化の歴史と背景について考察することを目的としている。分類件名一体化とは分類法と件名標目表を融合して情報検索の新しい語彙を形成することであり、資料分類の要求と件名索引の要求を同時に満足させるものである。中国で最も成功した成果が、西洋分類理論、特にAitchisonの *Thesaurofacet* (1969) を模範として作成された『中国分類主題詞表』(1994) である。まず中国における現代の分類法と件名標目表の歴史を概観し、続いて分類件名一体化の背景について考察を行った。

Abstract

The purpose of this paper is to discuss a history and backgrounds of the integration of classification and subject headings in China. The integration of classification and subject headings means a creation of new vocabularies for information retrieval by combining classification system and subject headings (or thesaurus) so as to satisfy the needs both of document classification and subject indexing. The most successful product in China is the *Classified Chinese Thesaurus* (1994), which was created under the influence of the Western classification theory, especially Aitchison's *Thesaurofacet*. A history of modern classifications and subject headings in China is overviewed, and then backgrounds of the integration of classification and subject headings are discussed.

* 筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程
Doctoral Program
Graduate School of Library, Information and Media studies, University of Tsukuba

1. はじめに

筆者は前著論文¹⁾において、中国における分類件名一体化研究の成果である『中国分類主題詞表』(日本語訳すると『中国分類件名標目表』)の特徴について検討を行った。その中で、『中国分類主題詞表』の成立背景についても考察したが、焦点を『中国分類主題詞表』に絞っていたので、分類件名一体化全体についての記述としては不十分であった。そこで、本稿では、『中国分類主題詞表』に至るまでの分類件名一体化の道程を辿ることにした。それにより、『中国分類主題詞表』の成立背景もいっそう明確になると考える。なお、前著論文の記述と重複する部分もあることをお断りしておく。

分類件名一体化とは分類法と件名標目表を完全に融合することであり、資料分類の要求と件名索引の要求を同時に満足させることを目的としている。代表的なのがイギリスの *Thesurofacet* (1969) である。この *Thesurofacet* を模範として、中国で作成されたのが上記の『中国分類主題詞表』(1994)である。

『中国分類主題詞表』は、分類法である『中国図書館図書分類法』と件名標目表である『漢語主題詞表』とを結合して編成され、1994年6月に中国図書館図書分類法編集委員会から出版された²⁾。5万余の分類項目と、21万余の正式件名標目(優先語)を収録している。「分類記号一件名標目対応表」と「件名標目一分類記号対応表」で構成されている。「分類記号一件名標目対応表」は、分類記号から件名標目への対照索引体系である。「件名標目一分類記号対応表」は、件名標目から分類記号への対照索引体系である。

以下、『中国分類主題詞表』の成立過程も含めて、中国の分類件名一体化の歴史について考察する。

2. 中国の分類法と件名標目表

分類件名一体化の歴史を検討する前に、その前提として、中国の分類法の歴史を簡潔に見ておく。中国の分類法といえば『四庫全書総目提要』に代表される『四部分類』が有名であるが、ここでは20世紀に入ってからの分類法に限定する。その中には『中国分類主題詞表』の一方の構成要素である『中国図書館図書分類法』も含まれている。また、件名標目表として、『中国分類主題詞表』のもう一方の構成要素である『漢語主題詞表』について概観する。

2.1 十進分類法の採用

20世紀に入って中国の分類法は大きく変わり、十進法を取り入れた分類法が作成されるようになった。十進法を取り入れた分類法³⁾は中国自体の情勢変化から生まれたものである。20世紀にはいって中国と外国との交流が活発になり、外国の思想・文化が流入するとともに、中国学者たちの国外留学が盛んになった。その結果、一方では外国人のための図書館(たとえば、上海の亜州文会図書館)が生まれ、他方では主に留学して帰国した図書館学者による分類法が数多く生まれた。これらの分類法は、『デューイ十進分類法』や『日本十進分類法』が基調になっていて、十進分類法の体裁を備えたもので占められていた。欧文図書の分類には十進分類法が、中国古典には伝統的な『四部分類』が使われた。

この時期の分類法としては、たとえば以下の分類法がある⁴⁾。

- 1) 四部分類を改訂したもの
 - a. 南通図書館分類法
 - b. 江蘇省立国学図書館分類法
- 2) 四部分類と十進分類法を併合したもの
 - a. 浙江公立図書館分類表
 - b. 河南図書館分類表
- 3) 四部分類と十進分類法を混合したもの
 - a. 洪有豊の分類法
十進分類法記号を使用し、その内容は各主題ごとに四部分類及びデューイ十進分類法の項目を振り分ける。
 - b. 清華大学図書館中文図書分類法
甲・乙・丙・丁が主類表で、細目は十進分類法による。
- 4) 中国・外国統一制の分類法
 - a. 世界図書分類表(杜定友編 1925年)
 - b. 中外図書統一分類法(王雲五編 1928年)
 - c. 中国図書分類法(劉国鈞編 1929年)
十進分類法に統一する。

十進分類法の誕生は中国の図書館制度が近代に入って大きな発展を遂げたことを意味する。しかし、まだ大きな問題が残されていた。

第一は、中華人民共和国成立後の新中国にとっては、これらの分類法が社会主義思想を反映していないという問題である。

第二に、これらの分類法はいずれも個人の手になるもので、しかも各地の図書館でそれぞれ独自に採用したために、全国的に統一された分類法が存在しなかった。さ

らに、中国の古典籍、古典籍以外の中国書籍、洋書とでは、それぞれ内容・形態ともに著しく異なり、その三つの異なった資料群を同一の書架に配架しなければならないという問題もあった。そこで、統一分類法編成への要求に応えることが急務となった。

以下の2.2節と2.3節で、この二つの問題にどのように対処していったかを見ていく。

2.2 社会主義思想を骨子とした分類法

社会主義思想を骨子とした分類法⁵⁾は中華人民共和国成立後に生まれた分類法である。それらは毛沢東の知識分類に関する指示を基調としたものであって、マルクス・レーニン主義体系に適合した分類法である。その主な分類法には以下のものがある。

1) 東北図書館図書分類法⁶⁾

中国で最初に社会主義思想体系を採用した分類法。1949年8月、東北図書館(現在は遼寧省図書館)が編成した。

2) 山東省図書館図書分類法⁷⁾

3) 中国人民大学図書館図書分類法⁸⁾

1953年10月。本格的マルクス・レーニン主義体系の分類法。中国で初めてマルクス・レーニン主義、毛沢東の著作を一つの分野として分類表の最初の項目に置くことにしたもので分類法の指導理念を明確にしたものであると言われている。十進分類法による束縛を破って、17の主題から成る配列にした。

4) 中小型図書館図書分類法⁹⁾

1957年8月。基本的にマルクス・レーニン主義の科学分類法に合わせて、中国人民大学図書館図書分類法の優れた点を吸収し、ソビエト・レーニン図書館の新分類法創案に学んで一歩前進している。

新中国が誕生して以後、図書館の分類法は質的に変化してマルクス・レーニン主義、毛沢東思想を指導思想とする理論体系¹⁰⁾が確立した。この段階の主な学術思想は、図書館分類学でマルクス・レーニン主義、毛沢東思想の精神をどのように表現するかの問題を研究することであった。この時期に形成された分類法の体系は現在に至るまでほぼ変わっていない。

2.3 統一分類法

十進分類法を取り入れた近代中国の分類法が抱えて

いたもう一つの問題は、統一分類法の制定である。特に、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想を分類体系の最初に位置づけ、思想性を明確にすることを維持した上で、いかに全国統一の分類法を形成するかが課題とされた。この課題が、まず1950年代後半に作成された『中国科学院図書館図書分類法』によって着手され、その後、1970年代半ばに作成された『中国図書資料分類法』と『中国図書館図書分類法』によってほぼ達成された。

『中国科学院図書館図書分類法』¹¹⁾は、1958年に科学出版社が出版したもので、1974年と1979年にそれぞれ自然科学と社会科学部分の第二版を出版、1994年に第三版を出版した。これは中国科学院系統の図書館専門分野で編成した一般分類法で、多くの大学と科学研究分野の図書館で採用している。

『中国図書資料分類法』¹²⁾は、1975年に中国科学技术情報研究所で科学技術文献の分類と検索の需要によって編成された。3回に渡る改訂を通じて2000年の第四版まで編纂されているが、第四版ではファセット理論を導入しようとする努力が見られる。実際にファセット分析を使っているのは一部分にすぎないが、中国で西洋分類理論を導入することの模範を示したことになる。

『中国図書館図書分類法』¹³⁾は、1975年に第一版が出版されて以後、3回に渡る改訂を経て1999年に第四版が出版された。全国80%以上の大学図書館と情報界で広く使われている分類法である。1981年10月、国家標準局は『中国図書館図書分類法』を国家標準分類法として決めた(後の第四版で『中国図書館分類法』に名称が変わる)。その体系構造をみると、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想、哲学、社会科学、自然科学、総合性図書(総記)、この五つの基本分野、二十二の大分類からなっている。第一章で述べたように、この『中国図書館図書分類法』が後に『中国分類主題詞表』の一方の構成要素となる。

2.4 件名標目表

以上で、中国の代表的な分類法をみてきたが、特に70年代からは『中国図書館図書分類法』を中心とした分類法が作成され、現在に至っている。『中国図書館図書分類法』は他の分類法の基になる役割を果たしてきたが、第四版の改訂に至るまで基本的考え方は変わっておらず、情報組織化の要求と情報検索の要求を満たさないという批判と、新しい分類法の構築が必要ではないかとの議論が出てきた。特に、80年代に入ってから西洋分類理論に関する研究が始まり、既存の分類法の改訂にも大きな力を入れ始める。そして、90年代のコンピュータ時代の新

しい情報検索言語の開発においては、西洋分類理論を参考にして中国の国情に合わせた分類件名一体化の道を選んだ¹⁴⁾。

分類件名一体化の過程については次章で考察するが、ここでは分類件名一体化のもう一つの柱である件名標目表について見ておく。

中国においても『国防科学技術件名標目表』、『農業科学件名標目表』、『铁路漢語主題詞表』、『航空科学技術主題詞表』などのいくつかの件名標目表が作られてきたが、特に重要なのが『漢語主題詞表』である。これは、『中国図書館図書分類法』とともに『中国分類主題詞表』の構成要素となるものである。1974年に中国では計算機による漢字の処理問題を解決するためのプロジェクトとして“汉字信息处理系统工程”748工程を設置した。同じ年に、この748工程で計算機処理ができるようにした漢字（件名標目）をすべて取り入れて『漢語主題詞表』を編纂することが決定された¹⁵⁾。

『漢語主題詞表』¹⁶⁾は、中国科学技術情報研究所と北京図書館で編成した大型一般件名標目表である。1975年7月から編成に着手し、1980年3月に正式出版された。これは、文献検索システムの中で中国語文献処理のための総合的なツールでもある。

主に科学技術部門の図書館で図書資料を索引、蓄積、検索するのに使われている。自然科学方面の各種の書籍、研究報告、学術論文、会議録、特許明細書、規格等の資料の索引と検索の要求に適応するとともに、社会科学方面の各種の書籍と資料の索引、検索の需要にも適応している。

構成は、主表、副表、主題階層索引、分類索引と英漢対照索引から成る。全部で三巻十分冊から成り、108,568余の件名標目を収録している。その中で正式件名標目（優先語）は91,158個で、非正式件名標目（非優先語）は17,410個である。1991年に自然科学部分について改訂を行い、自然科学部分の増補版を出版した。増補版には8,221個の新しい用語を加え、5,434個の古い用語を削除した。しかし、その後長い期間改訂されておらず、また、自然科学以外の部分も改訂が必要とされている。

3. 中国における分類件名一体化の背景

前章で中国における現代の分類法及び件名標目表の歴史を概観したが、そこで出てきた『中国図書館図書分類法』はその後、西洋分類理論の影響を受けて改訂の必要性が主張されることになる。また、『漢語主題詞表』を

含む多数の件名標目表は標準化の必要性に迫られることになる。分類件名一体化の考えは、この二つの流れの中から生じてきた（3.1節と3.2節）。さらに、分類件名一体化の考え自体には西洋分類理論に基づく理論的背景が存在する（3.3節）。

3.1 『中国図書館図書分類法』の改訂

分類件名一体化の成果である『中国分類主題詞表』は『中国図書館図書分類法』を改訂する過程で生まれたものである。つまり、分類件名一体化の考えはこの過程の中に起源の一端があるといえる。

1956年に英国で開催された第一回国際分類研究会議で、ランガナータンが提唱したファセット分類法を高く評価して今後の分類法が歩むべき道として定めているが、この時点ではまだ、ファセット分類理論は中国の分類法編成には応用されなかった¹⁷⁾。実際、50、60年代に編成された『中国人民大学図書館図書分類法』や『中国科学院図書館図書分類法』などは、純粋に列挙型分類法であった。

1950年代末から図書館界ではランガナータンの分類思想の研究を深めた。ランガナータンの著作と西洋分類思想に関する研究、分析を通じて多くの研究論文が発表された。1957年に中国の著名な図書館学者劉国鈞は『冒号分类法简述（コロソ分類法簡述）』を発表した。これは『コロソ分類法』の発展経過、基本概念と構造について簡単に要約し、説明と論評を加えている。強一宏はランガナータンの『冒号分类法和它对文献工作的作用』という本を翻訳した。この二つの文献の発表は、はじめてランガナータンのファセット分類学と『コロソ分類法』を中国に取り入れて中国国内学者の注意を喚起した¹⁸⁾。

その他¹⁹⁾、西洋の文献分類法の研究の中で系統的で総合性のある研究として、劉国鈞の「現代西方主要图书分类法评述」、皮高品の「图书分类法评论集」、王渝の「西方分类法的发展趋势」、宋明亮的「国外分类法引进的回顾与前瞻」、张宇宏の「近五年国外主要分类法研究述评」などがある。また、『デューイ十進分類法』についての研究には、白国应の「历史的丰碑-纪念<杜威十进分类法>出版120周年」、「杜威十进分类法在中国的传播-纪念<杜威十进分类法>出版120周年」、「杜威十进分类法对我国图书分类法的影响-纪念<杜威十进分类法>出版120周年」、曾锡年の「概论杜威十进分类120年来的发展」、「试论杜威十进分类法的编辑原则及其变革」、高再其の「DDC获得成功的因素论」、「DDC十九版略谈」、「DDC19版的索引研究」などがある。『国際十進分類法』についての研究には、皮高品の「国际十进分类法评介」、林德海の

「UDC:历史,现状及发展前景」,周慧の「试评<国际十进分类法>」丁珂の「文献工作中的国际十进分类法」,侯汉清,肖自力の「<国际十进分类法>新评」などがある。『コロン分類法』についての研究には,蒋万民の「分面分类法简介」,张欣毅の「分面分析与分面分类法概说」,叶千军的「分面分析理论与实践研究」,「阮冈纳赞理论及其应用研究」,宋克强,许培基の「冒号分类法解说及类表」などがある。

このような西洋の分類研究は『中国図書館図書分類法』の編成,改訂に大きな影響を与えたと考えられている。実際,1975年に『中国図書館図書分類法』が正式に出版された時から,まだ少数の項目に限られてはいたが,『コロン分類法』を導入している²⁰⁾。

こうした中で,『中国図書館図書分類法』の改訂を中心に2回の重要な会議が開かれた²¹⁾。第一回会議は1985年の铜陵会議で,この会議ではファセット分類技術を採用することと,項目の範囲を拡大する(数を増やす)ことを決めた。この会議は『中国図書館図書分類法』の第三版の編成の理論的基礎となった。第二回会議は1990年の天津会議で,ここでは『中国図書館図書分類法』についてファセット化をするためのいろいろな方法について検討し,『中国図書館図書分類法』を列挙型分類法からファセット分類法に改訂を行う技術上の研究と準備を行った。この2回の会議で,中国の分類法が今後歩むべき道を検討し,その過程で分類件名一体化言語の編纂における理論方針,指導方針がたてられた。

このように,西洋分類理論,特にランガナータンのファセット分類の考え方を取り入れて『中国図書館図書分類法』を改訂するという実用的な動きの中で,分類件名一体化の一つの流れがでてきたのである。そこには,ファセット化のために西洋分類理論を研究する中で,イギリスの *Thesaurifacet* を代表とする分類件名一体化の研究に着目したという理論的背景があるが,この点については3.3節で検討する。

3.2 件名標目表の標準化

『中国図書館図書分類法』の編成,改訂の動向と並行して,件名索引法においても分類件名一体化の動きが見られた。

1980年代中期に入り,『漢語主題詞表』の編成に伴って,中国では10種類余りの専門件名標目表が出版され,これらの専門件名標目表間の互換性の問題が現実的となった。

こうした問題への取り組みの一つとして,1983年9月に中華人民共和国国家規格であるGB3860-83『文献主

題索引規則』が発表された²²⁾。本規則は大きく五つの部分に分けて記述されている。それぞれ,主題内容と適用範囲,術語,主題分析,索引語の選定,質の管理である。主な内容は,文献主題の分析及び各種の漢語件名標目表に基づいて文献主題の索引づけを行う方法について規定したものである。知識窓は『改革开放以来我国情报语言的发展』¹⁷⁾において,後の分類件名一体化言語もこの規則にしたがって編纂することになったと述べている。

80年代後期に入ると,文献データベースの構築ブームが出現した。その結果,利用者は検索時に,有用な情報が多数の異なるデータベースや検索システムに分散されているという問題,また,同じ主題概念が異なるデータベースや検索システムの中で異なる検索言語で表示されているので異なる方法でしか検索できないという問題に直面した。こうした中で,検索ツールとして件名標目表だけではなく分類法も考慮に入れて標準化をしようという考えが出てきた。これが分類件名一体化のもう一つの流れである。

3.3 分類件名一体化の理論的背景

前項までに見たように,中国における分類件名一体化の過程には,『中国図書館図書分類法』の改訂と件名標目表の標準化という実用上の背景が存在するが,その一方で,分類件名一体化自体の理論的な背景も存在していた。

理論的背景の一つは,分類法と件名標目表に共通の基盤があるという認識である。郭晓兰の「略论分类主题一体化」²³⁾では,分類法と件名標目表は二つの相互に異なる概念であるが,共通の要素もなければ一体化はできない,として分類法と件名標目表の共通点を以下のようにまとめている。

1) 共通の認識論的基礎をもっている

件名標目表と分類法は知識を組織化する面では同じではないが,二つとも同じ認識論の方法—分類という方法を取っている。分類は人類の思考の本性であり,事物を知識分類法に納めたものである。千差万別である事物体系研究の重要な方法,つまり各事物の間の区別と関連を揭示,把握する重要な手段でもある。文献の主題分析や件名索引の段階は分類法と分類思想の運用から離れることができない。件名標目表を編纂するに当たってマクロ構造からミクロ構造まで分類法の運用が浸透していることがわかる。つまり,“隠れた分類法”を形成しているのである。件名標目表の中の各件名標目(ディスクリプタ)は孤立したも

のではなく、全体系の中の一部であり、一つの概念について分類を行った結果である。件名標目表と分類法の認識主体と認識方法の共通性はこの二つが結合できる重要な基礎的なものである。

2) 共通の情報言語学の基礎をもっている

1964年の第二回国際分類研究会議で“分類法”の概念について新しい解釈が行われた。分類法は“任意の語彙の間に関連を付ける方法である”。この新しい定義から人々は分類法について新しい認識をもつようになり、分類の対象は語彙の意味であることに気が付いた。これは分類法と件名標目表が概念上融合し易いものであることを説明する。現代の分類法は二つに分けることができる。一つは伝統的体系分類法で、もう一つは分析合成型分類法であるが、後者はファセット式分類法と索引法を含んでいる。西洋の学者が索引法を“隠れた分類法”というのもこの意味からである。1971年ドイツのSoergelは分類法を“各種関連内容が存在する術語或いは概念の一覧表である”、“各種の研究要素は学問体系によって配列でき、また、研究対象によって配列できる”と分けて分類法と件名標目表をほぼ同じように定義している。

分類件名一体化の理論的背景の第二は、西洋分類理論の影響である。第一章で、『中国分類主題詞表』はイギリスの *Thesaurifacet* を模範として作成されたと述べたが、それ以前から西洋分類理論を摂取する過程で分類件名一体化の考えが芽生えていた。

デューイが十進分類法を編成するとき音順相関索引も同時に編成しているが、これは上で引用した郭晓兰のまとめの1)に該当する。ただし、この時点ではまだ、分類法と件名標目表の間の相互影響、相互浸透を表現することができず、両者の結合程度を表すことができなかった²⁴⁾。

1960年代以後、件名標目表が多数作成された。そうした件名標目表の中では、UF、NT、BTなどの関係が表現され、分類索引と件名索引(階層)、順列式索引、主題階層図なども用意されている。また、そのころから中国では分類法の進むべき方向について議論を行い、杜定友は分類件名目録を編成することを主張した。彼は、前の3級(上位3桁)までは分類体系で組織し、第四級から件名字順に排列することを主張した。これは実際には分類目録を件名化することにある。多くの文献ではこれが中国の分類件名一体化の啓蒙思想だといひ、杜定友は啓

蒙学者だと見なされた。ただし、杜定友自身は、西洋の一部の学者たちは(上記のことによって)件名標目表だけで分類法との結合を実現していると考えている、と指摘している²⁵⁾。さらに、件名標目表編成において直接分類の方法を利用しているが、実際には分類体系表、主題階層表などは補助の役割をするだけで独立に存在する意味を持たせておらず、しかも、件名標目表中の件名について厳密な分類を行っていないし、単独に主題階層索引を完成する機能も持たせていない、とも指摘している。そして、分類件名目録を編成することと、この面で探究を行うことを提唱した。しかし、その後、中国では“文化大革命”が起き、この課題の研究は中断された。

80年代初期までは、中国の図書館および情報界では『中国図書館図書分類法』など国内で編成した何種類かの分類法を使い、外国の分類法(たとえば『デューイ十進分類法』、『国際十進分類法』)および件名標目表(*LCSH*)はわずかのところでしか使っていなかった。その頃は主に、全国統一して一つあるいは二つの分類法を使うことにしていたので、異なる分類法の間での兼用互換問題は注意されていなかった。

80年代後半以降、人々は分類法と件名標目表両者の長所を兼ね備えた分類件名一体化の索引・検索ツールを造ろうと試みた。

このような課題に伴い、西洋分類理論に関する研究が盛んになった。中国で研究された西洋分類理論には、主に、*Thesaurifacet*, *ROOT Thesaurus*, 『医学件名標目表』, *Unesco Thesaurus*, 『デューイ十進分類法』, 『国際十進分類法』, 『議会図書館分類法』, 『コロン分類法』, 『ブリス書誌分類法』, 『ブリス書誌分類法第二版』, などがある。この中でも、*Thesaurifacet*, *ROOT Thesaurus*, 『医学件名標目表』などの分類理論に関する研究によって、分類件名一体化の必要性と可能性に関する研究が進められた。

西洋で編纂された分類件名一体化ツールとして取り上げられたものを表1²⁶⁾にまとめた。これらは必ずしもすべて純粋に分類件名一体化ツールというわけではないが、かなり特殊な分類法・件名標目表まで取り上げており、西洋分類理論によく注意を払っていたことがうかがえる。

表1 欧米の分類件名一体化ツール (侯汉清、马张华、主题法导论、1991.9.p164.より)

編者	名称 (訳名)	原名	編成年
Aitchison	分面叙词表- 工程と相关 学科叙词表 と分面分類 法	Thesaurofacet	1969
Aitchison	老年福利分 類表と叙词 表	Classification and thesaurus of welfare of the elderly	1972
DJ Douglas John Foskett	伦敦教育分 類法第二版	Lodnon education classification (2 nd ed)	1974
J.G.Willia ms	建築工業叙 词表	Construction industry thesaurus	1971 1976年 2版
ILO (国際 劳工处)	職業安全と 健康叙词表	CIS thesaurus	1976
Aitchison	联合国教科 文組織叙词 表	UNESCO thesaurus	1977
BSI (英国 标准協会)	基礎叙词表	ROOT thesaurus	1981 1985年 2版
英国国家 図書館	物理学叙词 表	Physics thesaurus	1981
Aitchison	青年叙词表	Thesaurus on youth	1981
Consumer Informati on (英国消 費者協会)	消費者词汇 叙词表	Thesaurus of consumer terms	1982
ILO (国際 劳工处)	国際劳工組 織叙词表	ILO thesaurus	1982
Aitchison	教育課程と 職業叙词表	ELOT thesaurus	1982
Aitchison	衛生と社会 安全数据叙 词表	DHSS-DAHA thesaurus	1985

中国において分類件名一体化の理論的研究が進められた第三の背景として、社会的需要があったことがあげられる。

分類システムも件名システムもユーザにとって必要なものである。故に有効的に、経済的に二つを結合して文献処理が同時に完成できるようにする。つまり分類索引と件名索引を同時に行うことができ、ユーザは一つの検索システムの中で音順件名検索と分類検索を行い、必要な時は変換検索もできるようになる。また、検索言語の編纂と管理も一つの機関で行うことができるので労力と資源を節約する面でも有利であり、詞表の編纂と管理のレベルを高めることができる²³⁾。

こうした理論的研究を背景にして、既存の分類法や件名標目表の改訂の際にこれらの理論を取り入れる可能性についての検討が行われた。

4. おわりに

本稿では、中国における分類件名一体化の歴史と背景を考察した。その結果、三つの流れがあることが明らかとなった。第一の流れは、現代中国の代表的分類法である『中国図書館図書分類法』が西洋分類理論の影響を受けて改訂される過程で、件名標目との統合という考えが出てきたことである。第二の流れは、『漢語主題詞表』を含む多数の件名標目表を標準化する過程で、分類法との統合も視野に入れた標準化の考えが出てきたことである。そして第三の流れは、分類件名一体化の考え自体に西洋分類理論に基づく理論的背景が存在することである。

こうした分類件名一体化の成果として、『中国分類主題詞表』が編成された。『中国分類主題詞表』は分類件名一体化詞表であると同時に、完璧な『中国図書館分類法』(改訂を行った『中国図書館分類法』第三版)と完璧な『漢語主題詞表』(改訂を行った『漢語主題詞表』)ともいえる。独立に分類検索と件名検索に用いることができるだけでなく、お互いに他方の欠点を補い合っており、その機能は単一の『中国図書館分類法』と単一の『漢語主題詞表』より優れているといえる。

今後は、文献の電子化、ネットワーク化が進展する中で、分類件名一体化がどのような意味をもつのか、『中国分類主題詞表』は電子化、ネットワーク化に対応できるのか、といった課題について研究を続ける必要がある。

謝辞

本研究をご指導いただいた筑波大学図書館情報メディア研究科緑川信之教授に深く感謝致します。

注・文献

- [1]梁桂熟. 中国における分類件名一体化の研究:『中国分類主題詞表』の成立と特徴. 日本図書館情報学会誌. vol.52, no.2, 2006.6, p.73-84.
- [2]中国图书馆图书分类法编委会编.『中国分类主题词表』华艺出版社, 1994. 6.
- [3]渡邊正亥監修, 鮎澤修, 芦谷清共著.『資料分類法』1984.1, p.25-33.
- [4]古代图书分类体系与我国传统学术的知识形态 (オンライン), 入手先 <<http://www.cnlib.com/ZYLWJ/fenleiybianm/200701/2485.html>> (参照 2007年 11月 21日)
- [5]前掲 3), p.30-33.
- [6]刘延章. 略论我国图书分类法的产生, 沿革及路向. (オンライン), 入手先 <http://engine.cqvip.com/content/g/93140x/1989/000/02/ts01_g1_151926.pdf> (参照 2007年 11月 21日)
- [7]李严编.『图书分类教学参考资料』书目文献出版社出版, 1995.10, 444p.
- [8]『分类法概况』 (オンライン), 入手先 <<http://www.lzy.cc/dzyls/12/ff.htm>> (参照 2007年 11月 21日)
- [9]黄宗忠编著.『图书馆学导论』武汉大学出版社, 1988.3, 398p.
- [10]李朝先, 克强编.『中国图书馆史』贵州教育出版社出版, 1992.2, 347p.
- [11]『中国科学院图书分类法』. 中国科学院图书馆编, 1979.11.
- [12]『中国图书资料分类法 (第四版)』. 科学技术文献出版社, 2000.2.
- [13]中国图书馆图书分类法编委会编.『中国图书馆图书分类法 (第三版)』书目文献出版社, 1980.6, 762p.
- [14]『分类体系说明』 (オンライン), 入手先 <<http://www.nstl.gov.cn/nstl/user/fhelp.jsp>> (参照 2003年 4月 10日)
- [15] 100年图书馆学最值得读的文献 (オンライン), 入手先 <<http://oldhuai.bokee.com/204783.html>> (参照 2003年 4月)
- [16]中国科学技术情报研究所, 北京图书馆主编.『汉语主题词表』科学技术文献出版社, 1980. 3.
- [17]知识窗. 改革开放以来我国情报语言的发展. (オンライン), 入手先 <<http://www.hncd.gov.cn/jiaotongyushehui/20010505/p56.htm>> (参照 2001年 5月 5日)
- [18]陈立华. 从阮冈纳赞的分面理論看情报检索言語的发展. 德州学院学报. vol.17. no.3, 2001.4, p.102-103.
- [19]白国应. 中国文献分类学研究 50年. 中国图书馆学报. vol.25. no.123, 1999.9, p.63-67.
- [20]宋安利. 中图法今后的修订策略及应用注重的问题. 中国图书馆学报. vol.19, no.85, 1993.1, p.80-82.
- [21]侯汉清编著. 当代分类法主题法索引法研究. 书目文献出版社. 1993.10, p.34-36.
- [22]GB3860-83—『文献主题索引規則』
- [23]郭晓兰. 略论分类主题一体化. 佳木斯大学社会科学学报. vol.20. no.6, 2002.12, p.135-136.
- [24]侯汉清. 分类法与主题法结合的成功尝试-分面叙词表. 图书情报工作. 1980年第六期, P.16-21.
- [25]辽宁省图书馆采编部.《中国分类主题词表》的标引实践. 北京图书馆馆刊. 1995 第三期, P.41-42.
- [26]侯汉清, 马张华. 主题法导论. 1991.9, p.164.

(平成 19年 9月 26日 受付)

(平成 19年 12月 20日 採録)